

静岡県掛川市下俣の掛川層群最上部より産する前期
更新世の軟体動物化石続報

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 北村, 孔志 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00024602

静岡県掛川市下俣の掛川層群最上部より産する 前期更新世の軟体動物化石続報

北村 孔志

1. はじめに

掛川市下俣の旧菖蒲ヶ池ゴルフ場跡に、2010年から2012年にかけて中東遠総合医療センター造成工事が行なわれた。2011年までの調査結果は、延原・北村(2012)で報告されているが、その後の調査で十脚甲殻類化石や大型植物化石の産出が確認されたので、続報として報告する。掛川層群の大型植物化石の報告は、吉川・北村(2005)、北村ほか(2010)が、十脚甲殻類化石の報告は、北村ほか(2006)がある。尚、化石採取時には造成工事が進みF地点G地点とも露頭からの採取であるが、時間的制約の関係で柱状図の作成や地層観察はできなかったことを付記しておく。

2. 化石産地と産出層準

延原・北村(2012)の報告時より造成工事が進み、旧ゴルフ場の地形が変化しており化石産地の地形面上での位置はずれている可能性がある(図1)。造成工事が行なわれた一帯は、掛川層群のシルト岩層や砂岩シルト岩互層が露出している。今回は前回報告したA地点からE地点より東側のF地点、G地点の2ヶ所である(図2)。

この一帯の地層については延原・北村(2012)で説明されているので、重複は避けるが曾我層と下位の土方層の境界部付近に相当する。

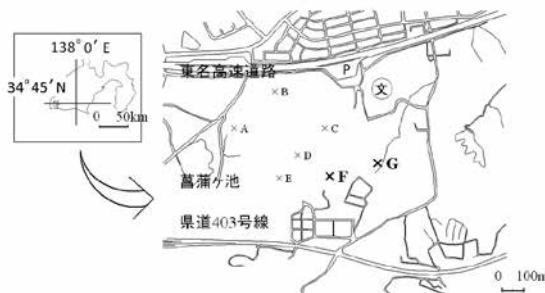


図1. 化石産出位置図。A～Eは延原・北村(2012)で報告された産出場所を示している。今回の報告場所はA～E地点より東側のF、G地点である。

F地点



G地点



図2. F～G地点の露頭写真。

3. 産出化石の概要と意義

延原・北村（2012）の報告では、37種が識別されそのうち21属23種が種レベルまで同定された。今回は、延原・北村（2012）の報告で報告された種及び今回新たに同定された軟体動物化石及びフジツボ亜目化石、十脚甲殻類化石、大型植物化石リストを表1に、化石写真は図3に示した。

軟体動物化石はA地点からE地点とF地点からH地点との間で顕著な差は認められなかった。ベニグリ (*Glycymeris rotunda*) やギンエビス (*Ginebis argentens*)、ゲンロクソデガイ (*Jupiteria confuse*) のような下部浅海帯以深の要素とサブスウチキサゴ (*Umbonium (Suchium) suchiense subsuchiense*) やベンケイガイ (*Glycymeris albolineata*)、アリソガイ (*Coelmaetra antiquata*) など

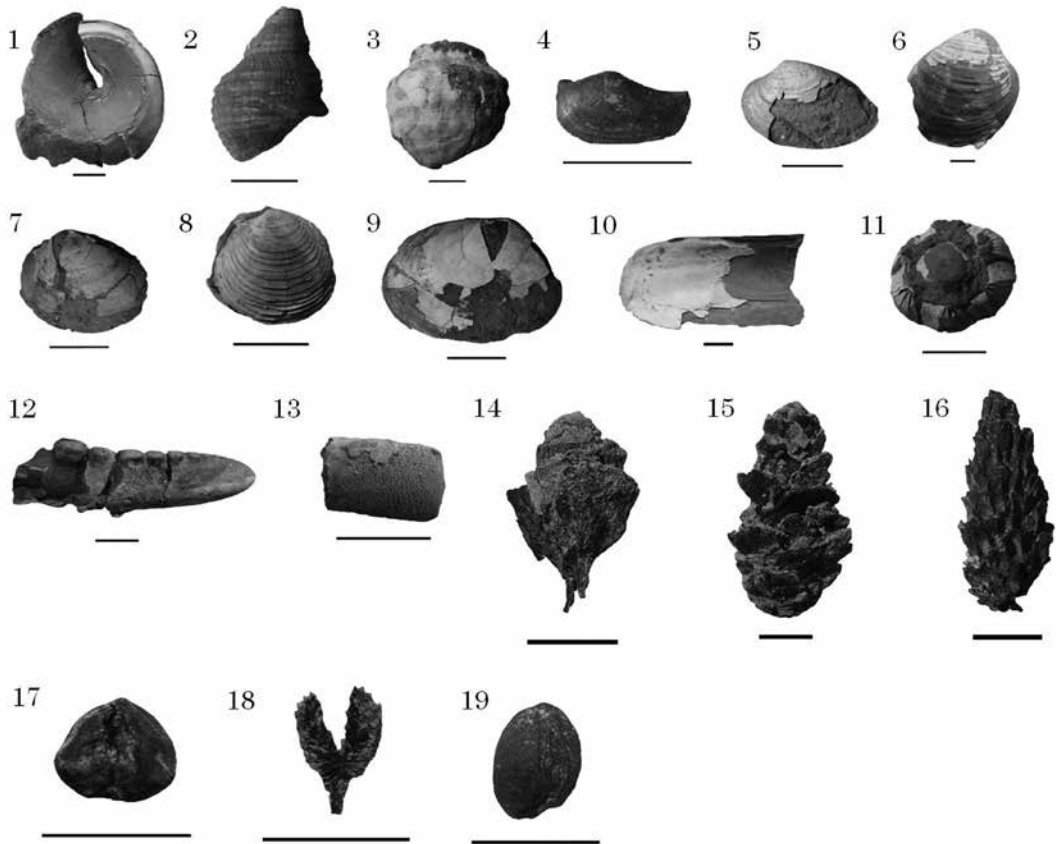


図3. 今回新たに同定された化石。軟体動物化石：1, ギンタカハマ属の一種 (*Tectus* sp.) ; 2, エゾバイ科? (*Buccinidae*?) ; 3, アクキガイの一種 (*Murex* sp.) ; 4, ゲンロクソデガイ? (*Jupiteria confuse*?) ; 5, イヨスダレ属の一種 (*Paphia* sp.) ; 6, フスマガイ (*Clementia papyracea*) ; 7, マルスダレガイ科 (*Veneridae*) ; 8, ツキガイモドキ? (*Lucinoma annulatum*?) ; 9, カバザクラ属の一種 (*Nitidotellina* sp.) ; 10, ユキノアシタ (*Phaxas attenuatus*)。フジツボ亜目化石：11, オニフジツボ (*Coronula diadema*)。十脚甲殻類化石：12, タカアシガニ (*Macrocheira kaempferi*) ; 13, スナモグリ科 (*Callianassidae*)。大型植物化石：14, ツガ属の一種の球果 (*Tsuga* sp.) ; 15, ヒメトガサワラの球果 (*Pseudotsuga subrotunda*) ; 16, マツ属の一種の球果 (*Pinus* sp.) ; 17, モクレン属の一種の種子 (*Magnolia* sp.) ; 18, ブナ属の一種の殻斗 (*Fagus* sp.) ; 19, エゴノキの内果皮 (*Styrax japonica*)。黒の横線は1 cmを示す。

表1 産出した化石

軟体動物化石				
学名	和名	F地点	G地点	
<i>Ginebis argenteonitens</i>	ギンエビス	3	2	
<i>Tectus</i> sp.	ギンタカハマ属の一種		1	
<i>Umbonium</i> (<i>Suchium</i>) <i>suchiense subsuchiense</i>	サブスウチキサゴ	1	4	
<i>Lunatina plicispira</i> Kuroda	キザミタマツメタ		1	
<i>Lunatina yokoyamai</i>	ヨコヤマオレイシラタマ		1	
<i>Galeodea</i> sp.	ヒメカブトボラ属の一種	1	1	
<i>Microfusus magnifica</i>	ナサバイ		3	
<i>Zeuxis siquijorensis</i>	オオハナムシロ		4	
<i>Amalda</i> (<i>Baryspira</i>) sp.	リュウグウボタル亜属の一種		1	
<i>Bathytoma luedorfi</i>	シャジクガイ		1	
<i>Splendrillia braunsi</i>	リンドウクダマキ		6	
<i>Kuroshioturris kurodai</i>	キリフシクダマキ		4	
<i>Inquisitor</i> sp.	モミジボラ属の一種		1	
Buccinidae ?	エゾバイ科?		1	
<i>Murex</i> sp.	アクキガイ属の一種		1	
<i>Acila divaricata</i>	オオキララガイ		1	
<i>Jupiteria confuse</i> ?	ゲンロクソデガイ?		2	
<i>Scapharca</i> sp.	サルボウ属の一種		1	
<i>Glycymeris albolineata</i>	ベンケイガイ	1	2	
<i>Glycymeris rotunda</i>	ベニグリ	15	27	
<i>Crassostrea</i> sp.	マガキ属の一種		2	
<i>Coelomactra antiquata</i>	アリソガイ		1	
<i>Dosinia</i> sp.	カガミガイ類の一種		1	
<i>Paphia schnelliana</i>	オオスダレガイ		1	
<i>Paphia</i> sp.	イヨスダレ属の一種		1	
<i>Clementia papyracea</i>	フスマガイ		2	
Veneridae	マルスダレガイ科		1	
<i>Lucinoma annulatum</i> ?	ツキガイモドキ?		1	
<i>Nitidotellina</i> sp.	カバザクラ属の一種		1	
<i>Phaxas attenuatus</i>	ユキノアシタ		1	
Teredinidae gen. et sp. indet	フナクイムシ科の一種	1	1	

フジツボ亜目化石				
学名	和名	F地点	G地点	
<i>Coronula diadema</i>	オニフジツボ		1	

十脚甲殻類化石				
学名	和名	F地点	G地点	
<i>Macrocheira kaempferi</i>	タカアシガニの鉗脚	2		
Callianassidae	スナモグリ科の鉗脚	1		

表1 続き

大型植物化石			F 地点	G 地点
学 名	和 名			
<i>Tsuga sp.</i>	ツガ属の一種の球果		2	
<i>Pseudotsuga subrotunda</i>	ヒメトガサワラの球果		1	
<i>Pinus sp.</i>	マツ属の一種の球果		2	
<i>Magnolia sp.</i>	モクレン属の一種の種子		1	1
<i>Fagus sp.</i>	ブナ属の一種の殻斗			1
<i>Styrax japonica</i>	エゴノキの内果皮		1	

の上部浅海帯の砂底～砂泥底要素が混在している点も同様である。

十脚甲殻類化石ではタカアシガニ (*Macrocheira kaempferi*) の鉗脚を報告する。生きている化石といわれるタカアシガニは、中新世以降に巨大化した (今泉, 1965)。静岡県内での産出は掛川層群大日層から北村ほか (2008) の報告がある。タカアシガニの鉗脚には明確な歯は6個あり長さは約5.5 cmで、北村ほかの報告より今回の鉗脚は大きい。現在でも遠州灘では底引き網に稀にかかるという。掛川層群の曾我層や土方層ができた時代と現在のタカアシガニが生息できる共通の環境下にあったと推定できる。

大型植物化石は吉川・北村 (2005) や北村ほか (2010) と共通している。F 地点, G 地点の露頭では明確なスランプ構造は観察されなかった。植物片を僅かに含んだ砂泥層は薄く F 地点で1層しか確認できなかった。ツガ属 (*Tsuga sp.*) やマツ属 (*Pinus sp.*) などは磨滅が激しく産出数も少ないため断定はできなが、出水にともない上部浅海帯まで運ばれたと推定される。

4. 謝辞

本報告にあたり、豊橋市自然史博物館の松岡敬二氏、吉川博章氏に多大なご助言をいただいた。また、現地への立ち入りに関して仲介の労をとってくださった寺田守袋井市議員、化石採取に配慮していただいた工事関係者の方々、ここに記してお礼申し上げます。

引用文献

- 今泉力蔵 (1965) : 日本産中新世のタカアシガニについて。甲殻類の研究, 2, 27-36.
- 北村孔志・柴 正博・横山謙二 (2006) : 掛川層群大日層から産出した十脚甲殻類化石。「海・人・自然」東海大学博物館研究報告, 8, 1-10.
- 北村孔志・吉川博章・延原尊美 (2010) : 掛川市長谷の掛川層群土方層から産出した大型植物化石。豊橋市自然史博物館研報, 20, 11-13.
- 延原尊美・北村孔志 (2012) : 静岡県掛川市下俣の掛川層群最上部より産する前期更新世の軟体動物化石。東海自然誌, 5, 45-50.
- 吉川博章・北村孔志 (2005) : 静岡県掛川市杉谷の後期鮮新世掛川層群土方累層から産出した大型植物化石。豊橋市自然史博物館研報, 15, 1-6.